

## 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 26 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	イベント交流館企画展示費				
担当課係名	イベント交流館ン 課	業務・管理 係	作成者	星野悟之	
総合計画での 位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画の ページ
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財保護			
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成			100
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 教育費	5 目 <small>学習資料館及びイベント交流館</small>	
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規/継続の区分		継続	
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	仙北市総合情報センター条例、仙北市総合情報センター管理規則				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直 営 <input type="checkbox"/> 直営 (一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託 (全部) <input type="checkbox"/> 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	来館者全般
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	常設展は、新潮社のあゆみをたどりつつ、明治以降の日本近代文学の歴史の一端に触れ得るような展示であり、企画展はテーマを設けて、それに関係した様々な資料等の展示であるが、来館者にとって文学館との出会いが、文学に関心を持つ契機となることを願っている。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	常設展・企画展の開催

【事務事業の推移】

項 目		単位	25年度実績		26年度実績		
			25年度実績	26年度実績	25年度実績	26年度実績	
効果	活動指標	常設展・企画展の開催	目標	回	4	4	
			実績	回	4	4	
			達成度		100.0%	100.0%	
	成果指標	常設展・企画展の開催	目標	回	4	4	
			実績	回	4	4	
			達成度		100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費	25年度決算額(千円)	26年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			2,964	0		
	人 件 費 (B)		—	7,782	0		
	職 員 数		—	0.95	0.00		
	職員平均人件費		—	8,192	8,540		
	(A)+(B) 投下コスト		—	10,746	0		
	財源内訳	国 庫 支 出 金					
		県 支 出 金					
		地 方 債					
		そ の 他					
一 般 財 源			10,746	0			
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	2,686,500	0		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	372	0		

26年度は国文祭時展示を含む

【事務事業の今までの成果】

イベント交流館が、仙北市の観光スポットとして位置づけられるようになったことにより、旅行会社の旅行行程にも組み込まれるようになってきた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	入館者の確保と企画展示に係る予算の確保に苦慮している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	文学だけでなく様々なテーマで展示を行ってほしい。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
<b>A</b>	A 現状のまま継続（実施）	仙北市の観光スポットの一つとして、展示内容の充実を図り、来館者に感動を与えるような展示となるよう心掛けてきた。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
<b>A</b>	企画展の多くは、明治、大正、昭和時代のもので、文学研究者には良いが、一般人は低関心なので来館数が少ない。企画力に富んだ学芸員が必要。町での催しもの（例えば雛めぐり）などと連携して、より深い参考本など展示して来館者を増やす努力が必要。

